



天文台だより

銀河の森天文台
2018 夏号
Vol. 80

感謝！銀河の森天文台開館20周年！



20周年を迎えるりくべつ望遠鏡とスタッフ一同

りくべつ宇宙地球科学館(愛称:銀河の森天文台)は、1998年7月7日に開館し、今年で20周年を迎えます。今年、陸別町開町100年の記念の年でもあり、観望会、講演会等、たくさんのイベントを企画しています。

この20年を振り返ると、今年5月末で、開館日数が5,035日、そのうち観望可能日が2,636日でした。この数字で晴天率を計算すると約52%です。入館者数は5月末で199,814人になり、もうすぐ20万人の声が聞こえるところまでできました。また、気になる入館者数最多の日は、過去20年では火星大接近の2003年8月27日(水)の921人、過去10年では陸別町年間最大のお祭り「しばれフェスティバル」が開催された2012年2月2日(土)の466名でした。入館者枠ではないですが、2011年12月10日夜に行ったUstreamでの皆既月食生中継では、延べ623,448人の視聴者が集まりました。

10年の間にスタッフの顔ぶれも変わっていますが、これからも益々ご来館者の皆様に満足して楽しんで頂けるよう、スタッフ一同頑張ってお参りますのでよろしくお願いいたします。

「20歳になった天文台」館長 上出洋介(牡牛座)

太陽活動が極大期であった1989年10月、この地に素晴らしいオーロラが現れました。見事な赤いオーロラが全国紙の第1面を飾り、陸別町は「オーロラの街」として、一躍世界中に知れ渡るようになりました。ここに高感度カメラを設置して連続観測を続ければ、もっと多くの専門的データが得られるに違いないと考えたのは私だけではないでしょう。テレビでオーロラ特番が生まれ、新聞や雑誌からの取材も増えました。陸別町長から、オーロラについての町民講演会の招待が届いたのもこの頃です。



(上出洋介館長)

このように、私にとって陸別町は、(1)磁気嵐・オーロラの機構解明という学術研究と、(2)真っ赤なオーロラが教える宇宙と地球の関係というテーマの一般啓蒙の2本立ての場になったのです。町では、公共天文台を建設する動きが活発化し、私も意見を述べる一人になりました。実は、オーロラは純粋な天文現象ではなく、あの高度は、ちょうど宇宙と地球の境界なのです。できるなら、宇宙の事、地球の事を対等に語り合う場所を創りたい。これが、私の夢でした。

1998年7月7日の誕生から、ちょうど20年が経ったということです。それより前の5年間は、この天文台立ち上げのための準備に要した時間ですから、計25年もの長きにわたって、当館の立ち上げと発展に密接に関わってきたことを誇りに思います。「天文台建設！」を旗印にしてきた方々にとって、宇宙地球科学館という名称は多少の違和感があったかと思いますが、目指す天文台は、正式名称「りくべつ宇宙地球科学館」となり、「銀河の森天文台」は愛称として残すこととなりました。

全国共同利用の研究所と、公共天文台がひとつ屋根の下に同居するという、ユニークな科学館を誇りに思っています。前者には、国立環境研究所のグループも加わり、環境一般や災害など、館の正式名にある「地球」視点の展示にも力を入れていきたいと思っています。

科学館とは、学校では教えない「ナマ」の科学を体験し、宇宙での人間の立場を考えなおす場所だと思います。りくべつ宇宙地球科学館に来て、自然との対話を楽しんでください。そして、この館が、次の20年に向けて、健全な発展を遂げるよう期待しています。新しい企画のアイデアなども大歓迎です。

7月7日(土)、山崎直子 宇宙飛行士講演会開催！



(C)MIWAKATOH

山崎直子宇宙飛行士

天文台開館20周年を記念し、2018年7月7日(土)に「第10回スターライトフェスティバル」を開催します。イベントのメインとして午後3時より、宇宙飛行士の山崎直子さんによる講演会及び陸別町と足寄町の小学生による質問会を開催します。講演会参加者は入館無料となりますので、ぜひご参加ください。

当日は、入館先着300名様に20周年記念グッズをプレゼントします。

第10回陸別スターライトフェスティバル

開催日時: 7月7日(土) 14時~24時

※天文台屋上に屋台(14時~19時)が登場!

プログラム

- 14:00 開館
- 15:00 開催挨拶
講演会 山崎直子宇宙飛行士「宇宙から見た地球」
- 16:30 小学生質問会
陸別町と足寄町の小学生による質問会
- 16:50 閉会
- 24:00 閉館

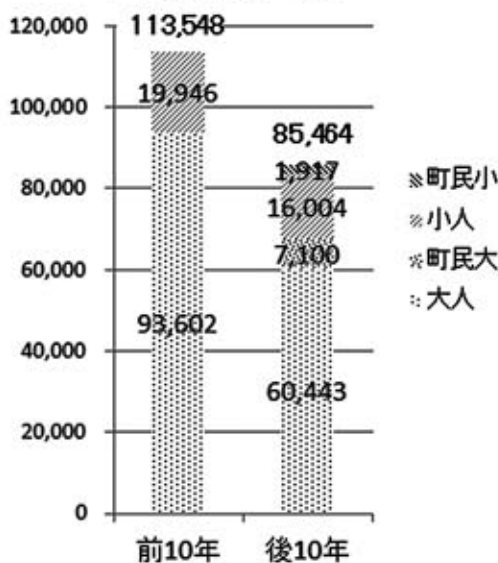
※天気が良ければ26時まで開館時間を延長します(入館は24時まで)

暦表

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
7月 1日	3:44	19:14	17.3	21:05	6:21
7月 15日	3:53	19:08	2.0	6:08	20:47
8月 1日	4:10	18:52	19.0	21:07	8:10
8月 15日	4:26	18:33	3.7	8:38	20:56
9月 1日	4:45	18:05	20.7	21:04	10:16
9月 15日	5:00	17:40	5.4	10:47	21:01

天文台開館20周年記念記事

入館者数比較



天文台開館20周年を迎え、オープンから10年(H10～H19年度:前10年)と最近の10年(H20～H29年度:後10年)の比較と、この10年間での変化についてまとめてみようと思います。

まずこの10年の変化で1番は、H20年度に条例改正により陸別町民の入館を無料としたことです。また、これに合わせて、天文台年間パスポートを値下げしました(大人3,000円→1,000円、小人1,000円→600円)。それまで、熱心な天文ファンが主だったパスポートの購入が、気軽に一般の方が購入するようになり、前10年が183枚のところ、後10年では2,298枚が販売されました。より親しみやすい天文台を目指した改革が発揮された部分ではと思っています。前10年は統計がないのですが、後10年の町民入館者数は9,017人で、全体入館者数85,464人で計算すると、入館者の約11%が陸別町民となりました(左図参照)。この数字に満足せず、より町民に親しまれる場を目指して、様々な企画を考えていきたいと思っています。

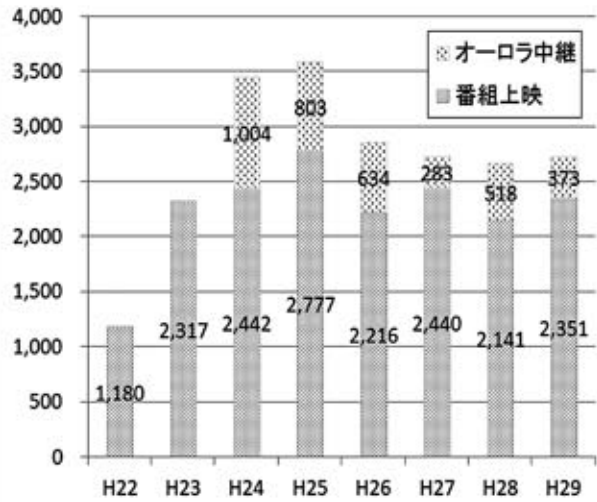
また、入館者数の大人と小人の比較をすると、前10年が小人18%に対し、後10年が21%となり、約3ポイントほど小人の比率が増えていることが分かりました。が、それでもまだ全国の科学館・天文台の中では、大人の利用率が高い施設になっています。

第2の変化としては、H22年4月から上出洋介名古屋大学名誉教授を館長として迎え、新たなイベント企画や展示等のリニューアルがありました。中でも大きなものとして、H22年11月からのデジタルプラネタリウム常設展示があげられます。1階展示室に4mエアドームを設置し、定員20名と小規模ですが、開館日の土日・祝日限定でプラネタリウム上映を開始しました。投影機は、コニカミノルタ株式会社のメディアグローブで、1K×1Kの映像を投影できるデジタルプラネタリウムです。プラネタリウム上映は入館料のみで観覧でき、昼間や天候の悪い夜などに人気のコンテンツとなっています。

このプラネを用いたイベント企画として、H24年度冬(H25年2月)から「オーロラウィーク カナダ・イエローナイフからのオーロラ生中継」を開催し、毎年人気のイベントになっています。

プラネタリウムの上映数と観覧人数の推移を右のグラフに示します。H23～H29年度の入館者数とプラネ観覧人数を比較すると、入館者の約34%がプラネタリウムを観覧している計算になります。

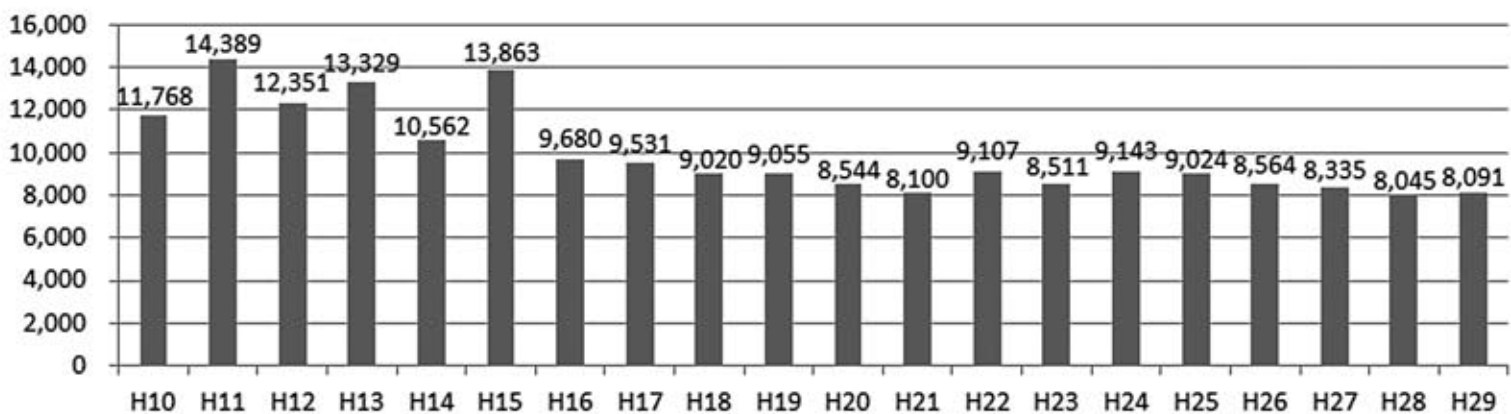
プラネタリウム観覧者数



3番目の変化としては、様々な研究機関等との協定を結ぶことができました。(1)H20年10月1日:「国立大学法人北海道大学大学院理学研究院・理学院・理学部と陸別町の相互協力協定書」締結、(2)H23年2月5日:「りくべつ宇宙地球科学館と大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所との相互協力に関する協定」締結、(3)H25年4月18日:「陸別町社会連携連絡協議会」包括協定確認書締結(協定機関:名古屋大学宇宙地球環境研究所、国立環境研究所、国立極地研究所、北海道大学大学院理学研究院、北見工業大学社会連携推進センター、陸別町)、(4)H26年3月20日:「りくべつ宇宙地球科学館と足寄動物化石博物館の包括連携に関する協定」締結、以上の4協定です。

最後に、天文台オープンからの年度別入館者数のグラフを下に示します。

年度別入館者数



ペッコカめぐり「温かい手」



銀河の森天文台は今年20周年を迎えます。私自身は天文台へ来て3年目と、まだまだ来たばかりですが、この間にも多くの印象的な出来事がありました。その中でも一番に思い浮かぶのは、2年前(だったかな?)に天文台に来てくれた、小さな女の子との思い出です。

その日ちょっと疲れ気味で、元気を振り絞ってご案内しているような日でした。そんなとき、小さな女の子が、ふと私と手を繋いでくれたのです。「あれ?お父さんと勘違いしているのかな?」と思いましたが、どうやら勘違いをしている訳ではないようです。もしや私が疲れているのを感じ取ってくれたのでしょうか?この日は少々寒く手袋をはめていなかったので「おじさんの手、冷たいよ」と話しかけると、今度は私の手をさすって温めてくれました。その女の子の気持ちに目がうるっとしてしまいました。どうにかこらえて星空のご案内を続けました。おかげで手だけでなく心まで温められ、疲れもすっかり忘れてしまいました。それから他のお客様もいる中、望遠鏡をのぞいたり星空を見上げたりする間も、ずっと手を繋いだまま。たくさんの天体を観望しましたが、もちろん一番に望遠鏡をのぞくのはこの女の子で、のぞくたびに声を上げて喜んでくれました。

この夜どれくらいの時間、一緒に星を眺めていたでしょうか?遅い時間となり、女の子は眠い目をこすりはじめましたが、まだまだ帰りたくない様子、ご両親が帰ろうと言ってもまだ頑張ってる様子を見ている。しかし、しばらく経ち、さすがにもう眠くなった様子で、名残惜しそうに「また来てね(来るね?)」と手を振って、今度は両親と手を繋いで帰っていきました。この小さな女の子と手を繋いで星空を見た夜が、天文台へ来てからの一番の思い出です。あの女の子は、まだこの夜の事を覚えているかな? (中)



拝啓、天文台より —「20周年記念グッズ、続々完成!」—



開館20周年・開町100年を記念して、銀河の森天文台オリジナルファイルと缶バッジを作成しています。出来上がった記念グッズをみると、20周年なのだなあと、しみじみ感じられます。私自身はまだ5年目ですが、天文台にはどれほど多くの方々関わってこられたのだろうと想像すると、やはり圧倒されます。天文台をつくり、支え、導き、訪れていただいたすべての方々に、感謝と敬意をお伝えしたいと思います。

そして、星空案内中、いつもそばにいてくれる存在といえば、りくり望遠鏡です。たくさんの世界を、新たな気づきを見せてくれる、りくり(ちゃん/くん/さん)の、いわば成人式を迎える場に居られるのが嬉しくなりません。開館記念日となる今年の七夕は、ちょっと妙な感じもしますが、いつもありがとう、これからもどうかよろしくね、と声をかけてみたいと思います。

さて、20周年記念グッズ(写真上:ファイルと缶バッジ2種)は、7月7日に開催される第10回陸別スターライトフェスティバルで、先着300名様限定にプレゼントします。また、20周年記念ファイル(1人につき1枚限り)は、7月8日以降に年間パスポートを購入(新規・継続どちらでも)された方、もしくは、今年度すでに購入され7月8日以降(今年度中)にご来館いただいた方にもプレゼントします。この機会にパスポートで、星空をぐっと身近に楽しみましょう!さらに、今回、あたらしい企画もあります。7月8日から今年度いっぱい、毎月新作の缶バッジを入館先着順で100名様にプレゼントします。全種類集めるのはなかなか難易度が高い、この缶バッジシリーズ。コンプリートするスゴイ方は現れるのでしょうか。スタッフも初めての試みにワクワクしています。お天気やご予約と相談しつつ、ぜひチャレンジしていただけたらと思います!

★毎月変わる缶バッジの柄はこちら(写真下)です。お目当ての種類がある方はお早めに…!

(守)



7月(8日~) 木星 8月 土星 9月 火星 10月 皆既月食 11月 望遠鏡 12月 天の川 1月 青空 2月 低緯度オウ 3月 M51銀河

天文行事&暦

7月

- 6/20-7/1、木星・土星観望会
- 7 小暑(24節気:太陽黄経105°)
- 陸別スターライトフェスティバル
- 12 水星が東方最大離角
(光度:0.5等, 離角:26° .4)
- 13 ●新月
- 23 大暑(24節気:太陽黄経120°)
- 25-8/5、火星・木星・土星観望会
- 27 火星が衝(-2.8等、視直径24" .3)
- 28 ○満月
皆既月食
(部分食始:3:24、皆既始:4:30、
北日本では皆既前に月没)
- 31 天文台特別開館
16時50分 火星が大接近
(-2.8等、57,589,633km)

8月

- 7/25-8/5 火星・木星・土星観望会
- 7 立秋(24節気:太陽黄経135°)
- 11 ●新月
- 11-13 ペルセウス座流星群観望会
- 13 ペルセウス座流星群が極大
(AM10時 最大60個/時)
- 13, 14 天文台特別開館
- 17 伝統的七夕(旧七夕)
- 17-19 伝統的七夕キャンドルナイト
- 18 金星が東方最大離角
(光度:-4.3等, 離角:45° .9)
- 23 処暑(24節気:太陽黄経150°)
- 26 ○満月
- 27 水星が西方最大離角
(光度:-0.1等, 離角:18° .3)

9月

- 5-16 火星・海王星と秋の天体観望会
- 8 白露(24節気:太陽黄経165°)
- 海王星が衝(7.8等, 視直径2" .4)
- 国立天文台縣秀彦准教授講演会
- 10 ●新月
- 21 金星が最大光度(-4.6等)
- 23 秋分(24節気:太陽黄経180°)
- 22-24 名月観望会
- 24 特別開館
中秋の名月
- 25 ○満月



国立天文台
縣(あがた)先生

☆国立天文台縣秀彦准教授講演会

天文台開館20周年記念イベントの第2弾として、国立天文台普及室長縣秀彦准教授による講演会を開催します。宇宙の不思議を分かり易くお話していただけます。

開催日時: 9月8日(土) 午後3時~午後4時30分
講演会: 「アインシュタインも間違えた?
~膨張するふしぎな宇宙~」

☆火星・海王星と秋の天体観望会

9月8日に衝をむかえ海王星がみずがめ座の中で見頃になります。遠ざかる赤い火星と見頃の青い海王星を望遠鏡で見比べてみてください。

開催日時: 9月5日(水)~16日(日)
説明会: 午後7時30分から(土曜・日曜のみ)

☆名月観望会

今年の中秋の名月が9月24日(月)になるため、当日は特別開館し、観望会を開催します。美しい月の様子をお楽しみ下さい。

開催日時: 9月22日(土)~24日(月)
※ 9月24日(月)は、特別開館します
説明会: 午後7時30分から

天文台からのお知らせ

☆ 7月31日、8月13日、14日、9月24日は、
月・火曜日ですが、特別開館いたします。

夏のイベント情報 !!

☆火星・木星・土星観望会

2003年8月以来15年ぶりに火星が大接近します。大接近日は7月31日(火)です。この日は特別開館し、大接近の火星をじっくり観望します。今年は明るく大きな火星と合わせて、木星や土星もこの時期楽しめます。ぜひ、ご来館ください。

開催日時: 7月25日(水)~8月5日(日)
※ 7月31日(火)は、特別開館します
説明会: 午後7時30分から(土曜・日曜・7/31のみ)

☆ペルセウス座流星群観望会

今年のペルセウス座流星群は8月13日の午前10時に極大時刻を迎えます。流れ星が多いと予想されるこの期間に観望会を開催します。屋上には畳や椅子を用意していますので、ゆっくり流れ星を探せます。

開催日時: 8月11日(土)~13日(月)
※ 8月13日(月)は、特別開館します
説明会: 午後7時30分から

☆伝統的七夕キャンドルナイト

伝統的七夕(8月17日)に合わせ天文台屋上広場にキャンドルを並べ、ゆっくりと星空を楽しみます。屋上には畳や椅子を用意しています。

開催日時: 8月17日(金)~19日(日)
キャンドル: 午後7時30分から

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100 FAX: 27-8102

URL: <http://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp